

退 官 に 当 っ て

友 田 宜 孝

私は本年三月に定年をもって退官することになりました。大学教育と研究に従事してから 35 年、この間何等大したことなくして夢のように過ぎ去ったことをはずかしく思う次第であります。

昭和 17 年に第二工学部が発足してから戦争が苛烈となり、研究も教育もはなはだ不如意となり、その後生産技術研究所に移行してからようやく仕事が軌道にのり始めたような有様でありまして、戦争による 10 年間のブランクがありましたことは真にいかんにかえぬところであります。しかし今さら過去の愚痴をこぼしても少しもプラスにはなりませんから、皆様と共にブランクをうめて余りあるようになるまで努力したいと思うのであります。

さて日本の工業と技術を見ますと、世界に伍して決してはずかしいものとは考えられません。そのあるものは世界に誇り得るものもあります。しかし全体としてみるとやはり一流国に比して見劣りのするものが多いことは否めないであります。

戦前のことではありますが、私は外国に留学して海外の研究や化学工業の一部を見てきたことがあります。私が期待していたほど私を感動させたものはほとんど見当らなかったように思うのであります。一体何のために外国留学にきたのかと自分を疑ったことさえあります。要するに一流国の進歩していることはわれわれの想像もつかぬほどのものではなく、ほんの少しばかり進んでいるのであります。この少し進んでいるということがいかに貴いものであるかということを知らねばならないと思います。われわれにもあの位のことはできると思いながらもなかなかでき難いのであります。科学者、技術者の研究能力もまたそうであります。ほんの少し偉いということが積り積り非常に偉いということになるのであります。われわれももう一息の頑張りでありますから大いに自尊自重したいのであります。

ふり返ってわが生産技術研究所の現状をみますと、最近ようやく研究所の形態をととのえてきて研究の成果が着々とあげられていることは真に意を強くする次第であります。建物こそテンポラリーのものではありますが、設備などは次第に整備されてきて、思う研究が大して支障なく行われるようになったことは喜びにたえません。また特殊熔鉱炉、放射性同位元素実験室、逆張力引抜機械、自動制御系装置、高精度微分解析機等を始めとして他所に類の少ない設備が次々とできてくることも嬉しい限りであります。

なお今後なすべきことは山ほどありますが、生研のような広い分野とそれぞれに有能な研究者を持つ研究所としては大いに総合研究を盛んにすべきであると思います。各分野の研究者が力を合わせて研究を行えば、難関は速かに解決され、偉大な事業が達成されると信ずるのであります。

さて今後わが生研にとって念願したいことの一つは不燃建築の達成であると思います。現在の建物は既に寿命がきているのみならず、火災に対して全く無抵抗であります。不幸にして万一火災を起せば貴重な装置設備等も失われてしまうのであります。乏しい研究費を年々注ぎ込んでせつかくここまでに辿りついた貴重なものを失うことは到底たえられないことであります。殊に化学系の実験研究はその性質上極めて火災を起し易いのでありまして、当然に不燃建築でなければならないのであります。今のような建築物ではあたかも鎧冑をつみあげた中で火を扱うようでありまして、火災を起さないのが不思議なのであります。研究者は火災を起さぬ用心のためにいかに神経を労費しなければならぬか計り知れません。これは研究を非常に阻害することになるのでありまして、私は一刻も早く不燃建築の達成を望んでやまないであります。

多くの有為な新進研究者を擁しているわが生産技術研究所が、安心して研究に邁進できますように、そうして多くの偉大なる研究成果が挙げられますように、私は蔭ながら祈りつづけるであります。(1955, 2, 7)